

平成29年5月18日

文化庁 国立近現代建築資料館 「平成29年度国立近現代建築資料館収蔵品展」の開催について

国立近現代建築資料館では、これまで、「坂倉準三展」（平成25年度）、「吉阪隆正+U研究室展」（平成27年度）、「大高正人展」（平成28年度）を開催し、各建築家の設計思想や挑戦の軌跡を多様な建築資料を用いて御紹介いたしました。

それぞれの展覧会の観覧者は約1万人にも及び、御好評を頂きました。そこで、この度の展覧会では、この3人の建築家の活動を、具体的な建築プロジェクト〈坂倉準三：出光興産給油所関連施設、吉阪隆正+U研究室：ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館、大高正人：農協事務所建築〉に焦点を当て、各人がどのようにプロジェクトに向き合い、試行錯誤を重ね、発想を膨らませたのか、その情熱を過去の展覧会で御紹介できなかった資料群を通じてお伝えします。あわせて、新規収蔵資料として、渡辺仁と平田重雄の建築資料を初めて御紹介します。（別添資料）

【開催概要】

- ・ **名 称**：平成29年度国立近現代建築資料館収蔵品展
- ・ **会 期**：平成29年6月10日（土）～9月10日（日）
- ・ **会 場**：文化庁国立近現代建築資料館
（東京都文京区湯島4-6-15 湯島地方合同庁舎内）
- ・ **開館時間**：10：00～16：30 ・ **休 館 日**：会期中無休
- ・ **主 催**：文化庁
- ・ **協 力**：公益財団法人東京都公園協会

＜ 担 当 ＞ 文化庁長官官房政策課
課長 杉浦 久弘（内線2803）
課長補佐 土居 孝一（内線2804）
電 話：03-5253-4111（代表）

＜問合せ先＞ 国立近現代建築資料館
副館長 橋本 祥介
電 話：03-3812-3401（資料館係直通）
E-mail：nama@mext.go.jp

本展示の構成と見どころ

セクション(1)

プロジェクト展示

所蔵資料から特定の建築プロジェクトに着目し、当該プロジェクトに係る建築資料を一堂に集め、その全容を紹介する資料展示です。代表的な図面だけでは把握することが困難な設計の方法論や建築家たちの挑戦の軌跡を、当館が保有する数々の資料を通して幅広く紹介します。

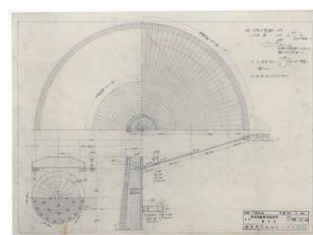
出光興産給油所関連施設 (坂倉準三資料より)

ガソリンスタンドに要求される機能と造形のバランスを考慮しながら
構造家と協働し、様々な構造形式に挑戦

1960年頃、坂倉準三建築研究所は出光興産の給油所、出張所、立体駐車場といった関連施設の設計を数多く手掛けました。「皆それぞれ、独自のものにしてほしい」との施主側の希望に沿うよう設計が進められたようです。ガソリンスタンドに要求される機能と造形のバランスを考慮しながら構造家と協働し、様々な構造形式にも挑戦していたことがわかる資料群です。ガソリンスタンドの覆屋で試みられた構造形式は、年代の近い、坂倉の他の建築作品にも用いられました。



松江給油所 透視図 | 図面 | - | - |
鉛筆 インク、トレーシングペーパー | 399×546



稲沢給油所 構造図 | 図面 | 1:50 | 1960年11月25日 |
鉛筆 インク、トレーシングペーパー | 421×569

ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館 (吉阪隆正+U研究室資料より)

吉阪隆正研究室が草創期に取り組んだ代表的プロジェクト
最初期の計画案から竣工後のテント増築案まで全容を展示

ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館は、イタリア・ヴェネツィア本島に設けられた国際美術展示会場の日本パビリオンで、吉阪隆正研究室が草創期に取り組んだ代表作のひとつです。当館が所蔵する資料には、建築形態の異なる最初期の設計案が複数あり、実施設計に向けた検討過程の図面や現場でのスケッチの他、竣工後のテント増築案なども多数含まれており、その設計プロセスを追うことができます。



外観スケッチ | スケッチブック | - | - |
鉛筆、トレーシングペーパー | 207×300



外観スケッチ | スケッチブック | - | - |
クレヨン、トレーシングペーパー | 207×300

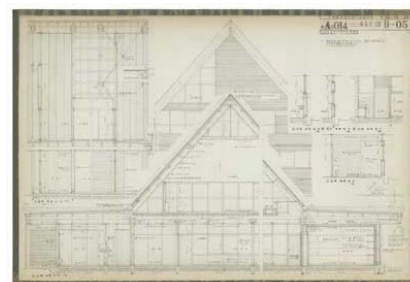


横断面図 | 図面 | 1:50 | 1957年3月1日 |
鉛筆、トレーシングペーパー フィルム | 516×836

農協事務所建築 (大高正人資料より)

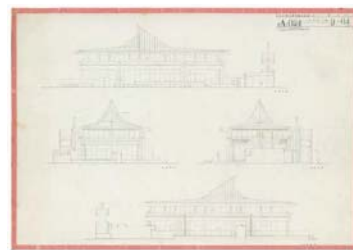
大高正人が掲げた「PAU(Prefabrication, Art & Architecture, Urbanism)」の統合を目指す設計の理念とその実践

大高正人は、全国の農業協同組合を農村社会建設の核とすれば日本列島の大半が豊かな社会になると考えて、1960年代に「農協建築研究会(NKK)」を組織しました。仲間の建築家と



片岡農業協同組合 矩計図 詳細図 | 図面 | 1:30 | 1962年10月25日 |
鉛筆、トレーシングペーパー | 804×550

もに各地の農協事務所の新築や改築の相談などに応じ、自らも全国に8件の農協建築を計画しました。当館が所蔵する7件の農協事務所建築にまつわる資料を通して、彼の掲げた「PAU（Prefabrication, Art & Architecture, Urbanism）」の統合を目指す設計の理念とその実践の軌跡を追うことができます。



山内農業協同組合会館 立面図 | 図面 | 1:100 | - | 鉛筆、トレーシングペーパー | 830×580

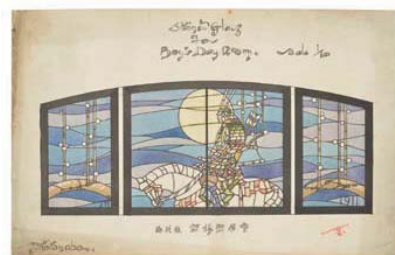
セクション(2)

新規収蔵資料展示

文化庁 国立近現代建築資料館が新たに収蔵した建築資料を紹介します。
今回初めて展示される貴重な建築資料の数々です。

渡辺仁 資料

渡辺仁は、ホテル・ニューグランド（横浜）、銀座和光ビル（旧服部時計店）、第一生命保険相互会社本館、原美術館（旧原邦造邸）、東京国立博物館本館（旧東京皇室博物館、重要文化財）などの設計者であり、数々の設計競技で名を挙げた大正・昭和戦前期を代表する建築家です。残存する資料は渡辺の建築活動を断片的に伝えるものですが、学生時代から戦後かけての建築作品の一部図面が残されています。また、スケッチブックからは卓越した画力がうかがわれ、渡辺が本格的に建築教育を受けるまでの様々な体験やその時代背景を伝える資料となっています。



Stained Glass for Boy's Day Room (学生時代の設計課題) | 水彩画 | 1:10 | 1911年 | 色鉛筆 インク 水彩、紙 | 297×470



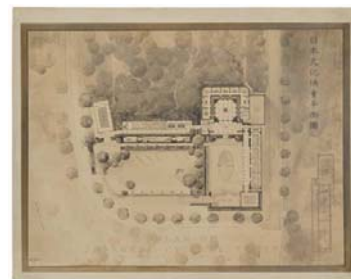
T定規 | 道具 | - | 木版 釘 | 834×288

平田重雄 資料

平田重雄は、松田軍平とパートナーシップを組んで松田平田設計事務所を創設し、我が国における組織的な建築設計事務所の先駆けとなった人物です。本資料群は、平田の自邸（Villa Le Mais）に保管されていたもので、コーネル大学留学時代に描いた西洋建築の細密なスケッチ画、学生時代の設計課題の写し、箱根仙石原の別荘、平田自邸などの図面に加え、原稿、スライド写真、音声テープなどで構成されています。平田重雄の業績や人物像を伝える資料となっています。



西洋建築の細密なスケッチ画 | スケッチ | - | - | インク 鉛筆、紙



日本文化協会 平面図 (学生時代の設計課題) | 写真

セクション(3)

デジタル資料展示

タッチパネル端末で、一部展示資料のデジタル画像が御覧いただけます。
スケッチブックや原稿など、実物展示のページ以外もデジタル画像で御覧になれます。

建築家略歴

坂倉 準三 （さかくら じゅんぞう / 1901 - 1969）

1901 年、岐阜県に生まれる。東京帝国大学文学部にて美術史を学んだ後、1929 年に渡仏し、ル・コルビュジエのアトリエに 5 年間勤務。帰国後、1940 年に坂倉建築事務所（1946 年に坂倉準三建築研究所へ改称）を設立。生涯にわたり家具から都市計画にいたるまで、多様な作品群を生み出した。

<主な建築作品>

神奈川県立近代美術館／塩野義製薬研究所／羽島市庁舎／新宿西口広場

吉阪 隆正 （よしざか たかまさ / 1917 - 1980）

1917 年、東京に生まれる。早稲田大学理工学部建築学科を卒業後、1950 年にフランス政府給付留学生として渡仏、ル・コルビュジエのアトリエに 2 年間勤務。帰国後、1954 年に吉阪研究室（1964 年に U 研究室へ改称）を設立。教育と並行して建築設計活動を開始し、住宅から都市計画まで幅広く手掛けた。

<主な建築作品>

ヴィラ・クックウ／日仏会館／アテネ・フランセ／大学セミナーハウス

大高 正人 （おおたか まさと / 1923 - 2010）

1923 年福島県三春町に生まれる。1947 年東京大学第二工学部建築学科卒業後、同大学院に進学。1949 年前川國男建築設計事務所入所。1960 年世界デザイン会議に「メタボリズム・グループ」の一員として参加。1962 年大高建築設計事務所設立。建築のみならず都市計画の分野でも建築界を引っ張った。

<主な建築作品>

栃木県議会庁舎／広島市基町団地／坂出人工土地／千葉県文化会館

渡辺 仁 （わたなべ じん / 1887 - 1973）

1887 年、東京に生まれる。学習院中等科在学中に狩野友信から日本画を、東京帝国大学工科大学建築学科在学中には、吉田博に師事し水彩画を学ぶ。大学卒業後、鉄道院にて働く。1917 年、逓信省に入省。1920 年に渡辺仁建築工務所を設立する。RC 造による建物を数多く手掛け、時代の要請を巧みに感じ取りながら果敢な挑戦を繰り返した。

<主な建築作品>

ホテル・ニューグランド／銀座和光ビル／第一生命保険相互会社本館／原美術館／東京国立博物館本館（重要文化財）

平田 重雄 （ひらた しげお / 1906 - 1987）

1906 年、東京に生まれる。1931 年、米国コーネル大学建築学科を卒業後、同校の先輩・松田軍平による松田軍平建築事務所へ入所。1942 年に松田平田設計事務所へ改組、我が国におけるパートナーシップにより運営される建築設計組織の先駆けとなる。モダニズムの影響が出始めた 1920 年代末に留学をした平田は、デザインにおいても大きな力を発揮した。

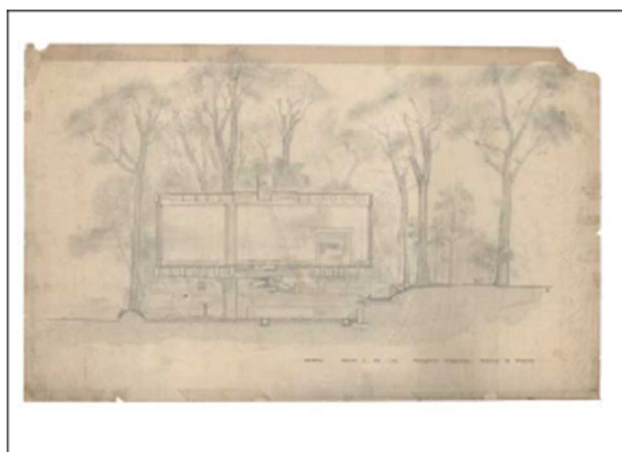
<主な建築作品>

石橋徳次郎邸／箱根仙石原平田別荘／Villa Le Mais（平田重雄自邸）

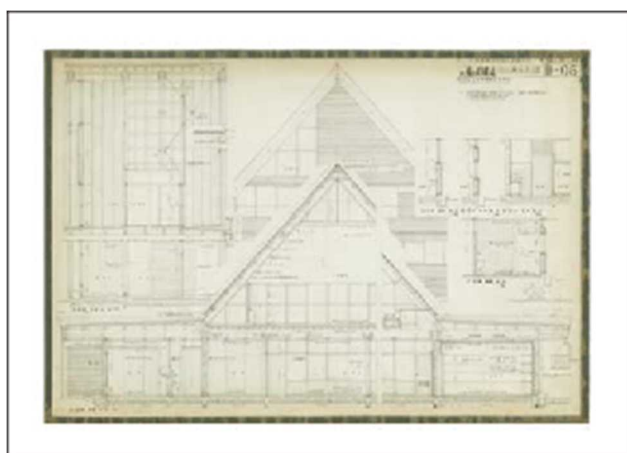
広報用図版



(1) 坂倉準三 《出光興産松江給油所》 透視図



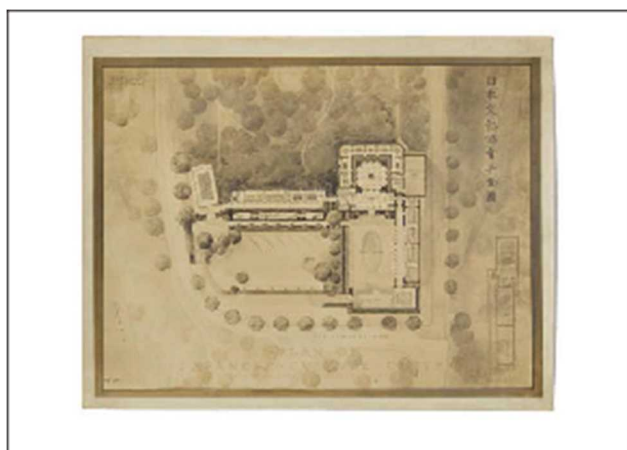
(2) 吉阪隆正 《ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館》
横断面図



(3) 大高正人 《片岡農業協同組合》 矩計図 詳細図



(4) 渡辺仁 《Stained Glass for Boy's Day Room
(学生時代の設計課題)》 水彩画



(6) 平田重雄 《日本文化協会 (学生時代の設計課題)》



(7) 国立近現代建築資料館 展示室

広報用図版を御入り用の方は、政策課資料館係（国立近現代建築資料館）まで御連絡ください。